長洲町立長洲小学校　校長便り　№154

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年2月8日(木)

私の中学時代「部活」

中学校では小学校と違って、かなりの時間と労力を費やすのが部活動です。そこでの友達は、長く付き合っていく仲間が多いような気がします。

気の合う仲間がいれば、きつくても最後まで続けることができます。3年間続けるということは、大変なのです。ハードな練習が原因で部活動をやめるということになっていく仲間もいました。私は学校からの帰り道、同じ団地に住んでいた友達と先輩の愚痴を言いながら、ストレス発散しながら帰宅していたことを思い出します。また、星を見ながら帰ったり、将来のことをぼんやりと考えながら帰ったり、部活後の帰り道は貴重な時間でした。

部活を強制するわけではありませんが、中学校の部活で学ぶものは大きいと思います。私の個人的な意見としては、部活はテクニカルスキルを学ぶこともさることながら、ヒューマンスキルを学ぶ場所だと思います。私は大学時代の部活の経験が、最もヒューマンスキルの糧となっていますし、辛い時のパワーの源でもあります。

卒業前雑感　～権利と義務～

川の川上に住む漁師と川下の住民のお話です。川上の漁師は網を川に渡して川面を石で打ちながら、その網に魚を追い込む漁をしていました。この漁は水を濁らせてしまい、川下の住民は「水が飲めない。」と言います。しかし、漁師は「魚が獲れなければ、生きていけない。」と言います。

どちらの主張も権利の主張としてはおかしくはないのですが、2人の考え方には相手の存在が無視されており、自己中心的であるともとれます。そこで話し合いがもたれます。話し合いをする場合大切なのは「相手の立場を尊重する」ことです。自己中心的な考えでは、解決の糸口は見えません。戦争などは自己中心主義の最たるもので、相手を尊重する姿勢は見えないでしょう。相手の立場を尊重し、互いの利益が最大限に保障できるところで最善策を考えることが大切です。そして、話し合いによって決まったことを守っていくために、互いの利益を損なわないように、また相手の権利を保障するために、決まったことをしっかり守ることが大切です。これがいわゆる「義務」です。義務を果たすことによって、「権利」が主張できるということなのです。

権利と義務の話は、普段の生活に適用できます。決まり事やルールが「義務」にあたるのです。これまでの出来事や体験から、先輩方や先生方が「守らなければならないこと」として決めてきたものであり、私達が話し合いで決めた、互いの利益を最大限に保障できる最善策なのです。だから守られなければなりません。守られるべきもの、それは時間を守ること、掃除を真面目にすること、宿題を毎日やること、礼儀を尽くすこと…たくさんあります。これらが守られないと、自分だけでなく、集団に迷惑をかけることになります。だから、「みんなのために頑張らなければ！」、「みんなに迷惑はかけられない。」という感情が生まれてくるのです。そして、互いの立場や権利を尊重した付き合いができるようになるのです。

シリーズ「自分を語る」#154

文部科学省での業務は午前中の2時間で終了でした。当初の予定では、夕方まで時間があるので、もう少し東京を満喫しようなどと考えていましたが、昨晩の散財と羽目の外し過ぎによって、何をしようにもやる気が起きませんでした。とにかく横になりたいとずっと思っていました。しかし、カプセルホテル等で仮眠をとることによって寝過ごしてしまうリスクがあり、そうもいきません。仕方がないので、夕方の飛行機の時刻まで残り6時間以上ありましたが、羽田空港に移動しておくという判断をしました。

空港内には多くの店舗や送迎デッキ、特にお土産に関しては東京土産だけでなく、全国のお土産が集まっているような様相です。ま、空港にいれば飛行機に乗り遅れることもないので、少し安心しました。ところが、例の二日酔いはまだ続いています。歩く元気と気力がないので、出発ロビーの椅子に座り、背もたれにもたれかかってため息をつくばかり…。「この体のだるさはちょっと異常だなぁ…」という感じでした。椅子に座ってネクタイを緩め、目をつむり、眠るでもなく、何かするでもなく、とにかく体調の回復を待ちました。傍から見れば、「仕事に疲れ果てたおじさん」という感じだったのではないでしょうか。前日の自分の行動を恨めしく思う私澤田です。

椅子に座っている間、昨日の行動を思い返していました。そういえば、国立科学博物館の人の多さには驚かされた。ひょっとしたら何かの感染症や?（まだ、この時点で国内ではコロナ感染は確認されていません。）昨日食べた刺身がいけなかった?（今まで魚で中ったことはありません。）そんなことを思いながら、時刻は午後3時を回っていました。出発時刻は午後7時過ぎですので、まだまだ時間があります。水分だけは摂っていましたのでトイレに行くことが空港内での活動でした。

トイレに行き始めてから、少しずつ体調が回復してきていることに気が付いた私は、お土産を買う準備を始めることに。まずは完全にこの二日酔いから脱出しようと、空港内を歩き始めました。「お?結構歩けるようになったぞ!」と気をよくした私は、送迎デッキ等にも行ってみることにしました。外の空気を吸うことで更に気分が良くなった私は、お土産屋さんを物色。職場をはじめ、家族、お世話になっている知人等々、リストを作って何を買うかを考え始めました。私の頭の中には「お土産を買うこと＝面倒くさい」という方程式がありましたので、どのお土産も同じ物になってしまいました。東京というとこれを買って帰れば無難なところでしょうという感じのお土産に落ち着きました。「○○バナナ」というスイーツです。気付くと同じものを大量に同じ店で買っていました。

さて、お土産も買い終わる頃には体調もほぼ回復し、帰宅までの動線がスムーズにいくように考え始めました。手荷物を預けてしまうと熊本空港に着いた時に時間がかかりそうなので、すべての荷物を機内持ち込みにすることにしました。しかしこれが大変でした。熊本行きの便はゲートが随分離れたところにあり、そこまでほぼ徒歩で行かなければなりません。その上、ゲートを過ぎると今度は搭乗する機体までバスで移動しなければならないのです。大量のお土産をもってバスに乗るのは大変でした。バスを降りてタラップを上り、やっとシートに着いたら荷物を安全な位置に移動…。「帰るのも一苦労だなぁ。」とため息をつく私でした。こうして、東京珍道中が終わっていきました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）